

2016 SUPER GT Rd.2 富士スピードウェイ

レポート

日時	2016年5月3-4日	車両名	VivaC 86 MC
場所	富士スピードウェイ	ゼッケン	25
イベント	FUJISPEEDWAY GT 300Km RACE	ドライバー	土屋武士/松井孝允
チーム	VivaC team TSUCHIYA	リザルト	予選：2位 決勝：3位



【持ち込みのセットアップが決まっていた】

・フリー走行での持ち込みセットアップの大切さ

まず、フリー走行の最初は土屋選手からセットアップを開始しました。

GTではフリー走行の時間が1時間30分と短く、持ち込みの段階でセットアップが決まっていれば、予選へ向けても決勝を見据えたロングランテストも行えるので、レースの結果に大きく左右してきます。

今回フリー走行の走り始めからフィーリングが良く、予定より早く自分へバトンが回り、そこで前回の課題も含め、改善に努めました。また、セットアップも更に良い方向性がないか試しながら走行を重ねていきました。そして予選に向けてニュータイヤでのアタックも行うことができ、予選へ準備万端で挑むことが出来ました。





【岡山からの課題を克服した予選】

フリー走行が終わり、データロガーのチェックも含めミーティングなどを重ね、準備を怠らないように気を付けました。

ここ富士での予選は、GT-3 勢が優位なのはわかっていましたが、まずは Q1 を突破することだけに集中し、そして前回からの課題でタイヤの温め方、タイヤの使い方を考えて走りました。

タイヤの内圧をアタックラップに合わせるという点はクリアできたと思いますが、Q1 という部分で台数が多いこともあり、引っかかる時にタイムロスになってしまうので、次回までにこの点も改善しなければなりません。

ただ今回は 1 アタックで予選を終えたことで決勝に向けてもタイヤを残すことができ、いい感触で終えることができました。

そして Q2 へは土屋選手が乗り込み、Q1 が終わった後すぐにタイヤを装着し、温め準備に入りました。

土屋選手のタイヤのおいしい部分を使いきるという所も、見習わないといけないと感じました。



【地獄と天国のレース】

迎えた決勝、フォーメーションラップへ入った際にタイヤのバイブレーションを感じ、タイヤカスを拾っていることに気が付きました。全開で走っていればすぐには取れるものですが、ペースカーが入っているときの対処がうまくいきませんでした。

パワー的に不利なので順位を下がる予想はしていましたが、予想以上に順位を下げてしまったのでチームには申し訳なく思いました。それでもレース中は、一つでも順位を上げることだけを考えて走りました。

他車よりも燃費の部分で良いことはピット時間で前に行けることはわかっていたので、チームと無線でタイヤのことだけ伝えて次の段階の戦略を考えてもらいました。

そして土屋選手のステイントでは硬いタイヤを選択し、最後まで引っ張る作戦にしました。土屋選手はタイヤをいたわりながらもプッシュし、最後のステイントが回ってくるまでに6位まで順位を回復することができました。

最後のステイントはタイヤ無交換で**55**号車を抑えきることができず悔しいですが、**18**号車も迫ってきていたのでバトルでのロスを最小限に抑え、最後までプッシュすることだけに集中しました。

富士というストレートが苦手なマザーシャシーで3位表彰台を獲得できたことは本当にうれしく思います。

表彰台からの眺めも最高でした。

富士ラウンドでは、たくさんの応援を有難うございました。

次回の菅生ラウンドは昨年勝っている相性の良いサーキットなので今年も勝ってシリーズタイトルもしっかりと組み立てていきます。

次回も応援お願いいたします。



株式会社サムライ

〒252-0822 神奈川県藤沢市葛原 2507

TEL : 0466-49-5010 FAX : 0466-49-5011

VivaC
RACING

HOPPY



YOKOHAMA

TCL
ADVANCE
TANIKAWA CHEMICAL LABORATORY

ほうらいせん

Djac

まへだ
眼 eye 科

伊豆稲取
カイド

